

恋人の性格特性に関する許容範囲

Acceptance Ranges of Lover's Personality Traits

戸塚 唯氏

Tadashi TOZUKA

本研究の第1の目的は、恋人の性格特性に関する許容範囲について検討することである。第2の目的は、ある性格特性をある水準で持っている個人は同じ特性に関して同じ水準を恋人に望むのかについて検討することである。

調査参加者は日本人大学生212名(男性119名、女性93名)である。彼らに対して特性リストを呈示して、そこに掲載されていた性格特性がどの程度自分に当てはまるかを回答させた。これが現実自己得点である。また、それらの性格特性を恋人にどの程度持っていてほしいか(理想点、上限点、下限点)について回答させた。これが理想得点、上限得点、下限得点である。

分析の結果、許容範囲はほぼ全ての性格特性において男女で差がなかった。一方、特性ごとの許容範囲の広さは異なり、比較的許容範囲が広い特性(例えば「頭の良さ」)や狭い特性(例えば「意志の強さ」)があることが明らかとなった。また、現実自己得点と理想点、上限点、下限点について相関係数を算出したところ、男性データの「言葉づかい」、女性データの「言葉づかい」と「おしやれ」でのみ中程度以上の相関が見られ、その他の特性については無相関、あるいは弱い相関しか見られなかった。

問題

多くの若者にとって恋愛は大きな関心事であり、若者は大量の時間や労力を恋愛や恋愛関係の形成に費やしている。その一方で、恋人に関する悩みや恋愛関係形成についての不安は大きく、それが若者のアイデンティティ拡散やウェル・ビーイングに関わっている。そのため、若者の精神的安定や行動傾向を理解するうえで恋愛の諸相について研究することが重要であると考えられ、社会心理学の領域では、従来から様々な恋愛研究が行われてきた。例えば、恋愛に対する若者の全体的態度(上野, 2004)、恋愛と社会的スキルの関係(堀毛, 1994)、恋愛の段階(松井, 1993, 2000)、恋愛関係形成時の告白の言語的方策(樋口・磯部・戸塚・深田, 2001)などがある。

なかでも、「恋人に望む性格・態度・特性」に関する研究は多い。例えば、詫摩(1973)や松井・江崎・山本

(1983)はどのような性格特性の異性を好むかについての研究を、戸塚・森・児玉・深田(2002)はどのような性格特性がどの程度好まれるかについての研究を、戸塚(2010)は、どのような性格特性がどの程度嫌われるかについての研究を行っている。これらの研究は、現代の若者の理想の恋人像や、恋愛関係の構築を目的にした異性へのアピールの様相について明らかにしている点で一定の価値があると思われる。

ところで、これらの先行研究は、調査参加者に意中の相手に持っていてほしい性格特性をリストの中から選択させたり、調査参加者に性格特性をいくつか呈示して意中の相手にそれらをどの程度持っていてほしいかを選択させたりする手法を使い、異性に望む性格特性の種類を大まかに示していた。しかしながら、そのような回答方式を採用したことにより、明らかにできることに限界があった。すなわち、前者の手法では各性格特性をどのレベルで望んでいるかわからないし、後者の手法では理想的に持っていてほしいレベルしか明らかにできないのである。理想的に持っていてほしいレベルを明らかにすることには調査対象者の理想のレベルを明らかにできたと

連絡先：戸塚唯氏 t-tozuka@cis.ac.jp

千葉科学大学 教職課程

Professional Teaching Course, Chiba Institute of Science

(2013年9月27日受付, 2013年12月2日受理)

いう意味があるが、実際の恋人選択行動を理解するためにはこのような研究だけでは十分ではないように思われる。理想的に持ってほしいレベルだけでなく、許容範囲についての研究も必要ではないだろうか。

現実社会で、全ての性格特性について自分の理想のレベルにぴったり合った相手を見出すのは困難であり、実際は一部の特性が理想のレベルから外れているとしても、それが一定の範囲内なら許容するのだろうかと思われる。例えば明るいという性格特性を取り上げると、自分にとっては「中程度に明るい」レベルの相手が理想だが、「それよりもやや明るい」、「それよりもやや暗い」レベルの相手なら我慢できるという個人も多いのではないだろうか。このように、相手に望む特性には許容範囲があるのではないかと考えられ、これを明らかにすることも若者の恋愛行動・心理を理解するうえで重要であろうと考える。

では許容範囲はどの程度の広さで、男女差はあるのだろうか。性格特性には男性がより高いレベルで持っていると言われる男性性特性と女性がより高いレベルで持っていると言われる女性性特性が存在する(伊藤, 1978)。そして、異性との恋愛関係形成の際には、相手の性の性格特性(つまり男性であれば女性の女性性特性、女性であれば男性の男性性特性)を重要視するであろうことが考えられ、重要視するためには許容範囲は狭くなる傾向があるのではないだろうか。あるいは性格特性ごとに許容範囲の広さが異なることも考えられる。例えば「たくましさ」では男女ともに許容範囲が広いが、「繊細さ」では男女とも許容範囲が狭いという可能性もある。この点についても分析を行う。さらに、ある特性をあるレベルで持っている個人が、同じ特性に関して同じレベルの相手を望むのかについても検討を行いたい。例えば、自分の「忍耐強さ」が中程度だと思う個人は、中程度の忍耐強さを持つ相手を望むのだろうか。Byrne & Nelson (1965)は、被験者が自分と態度が似ている他者をより魅力があると評定したことを報告し、類似説(態度が似ている相手に魅力を感じやすいとする説)を提唱したが、性格特性の類似に関しては結果がやや混乱しているように見える。例えば、中里・井上・田中(1975)は、性格の類似のために相手に魅力を感じるのではなく、相手が社会的に望ましい性格をもっているために魅力を感じる可能性を示唆しているし、戸塚・狩野・上北(2005)では類似性の効果は一部の性格特性間でのみ限定的に生じることを報告している。本研究は各性格特性に関して、自分が持っているレベルと、相手に理想的に持ってほしいレベルの双方を測定する。つまり類似度について定量的に測定していない従来の研究とは異なる角度からこの問題を扱うことになり、性格特性のレベルの類似による魅力の感じやすさについて新たな知見が見いだされると思われる。

方法

調査参加者と調査手続き

調査参加者 参加者は千葉県内の日本人大学生239名であった。ここから回答に不備のある者11名、21歳以上の者8名、異性愛志向でない者(同性愛志向の者、両性愛志向の者、回答のない者)8名を除いた結果^(注1)、最終的な分析対象者は212名(男性119名、女性93名)となった。

調査手続き 調査は、大学の講義時間中に集団実施した。質問紙の表題は「恋人に求める特徴に関するアンケート」であり、A4用紙4枚(表紙を含む。片面印刷)で15分程度で実施した。また、基本的な伝達事項として、質問紙表紙および口頭で、この調査は無記名で行うこと、個人が特定されるような結果を公開することは絶対にならないこと、また何らかの理由・信念・主義等のために回答したくない場合には質問紙の全てあるいは一部に回答しなくてよいことを伝えた。また回答方式に必要な箇所について、質問紙を配布する前にプロジェクターとスクリーンを使いながら、回答時に注意を要する点について、次のように説明した(添付資料1の質問紙を参照)。「設問Ⅰは、同性も異性も含んだ人を想定して回答すること」、「設問Ⅲは、各項目について記入例のように二つの△と一つの○を記すこと」、「すべての質問に関して、答えたくない場合は答えなくてよいこと」。調査時期は2013年7月であった。また調査を実施した2週間後にはデブリーフィングを行い、調査参加者に調査の目的や結果の概略を説明した。

特性リスト

本研究では、特性リストを使用した。これはさまざまな性格を列記したリストであり、たくましさ・繊細さ・明るさ等の項目からなっている。本研究ではこのリストをもとに、当該の性格特性が調査参加者自身にどの程度あるかを評定させたり、それらの性格特性を恋人にどの程度求めるかを尋ねたりした。本研究で使用した特性リストは、伊藤(1978)や戸塚ら(2002)で使われた特性リストの縮約版である。これらの先行研究では男性性特性10、女性性特性10、人間性特性10、その他の特性10の計40の性格特性からなるリストを使用していたが、本研究では特に設問Ⅲにおいて回答方法が複雑であり、40の性格特性全てについて回答させると参加者の負担が増え、誤回答が増加する恐れがあると判断し、伊藤(1978)や戸塚ら(2002)のリストから性格特性を抜粋し、男性性特性4、女性性特性4、人間性特性4からなる縮約版のリスト(表1の項目名を参照)を作成・使用した。

測定項目

現実自己得点 調査参加者に特性リストを呈示し、同

年齢の人たちに比べて、各特性をどの程度持っているかを7段階で評定させた（かなり低い1～かなり高い7）。なお、本研究では各特性に関する現実自己得点（当該の特性が自分にどの程度存在していると思うかについての得点）の測定に関して、あらかじめ調査参加者に「同性も異性も含んだ人を想定して、その中で自分がどのレベルかを考えて回答すること」という注意喚起を行った。これは、戸塚（2010, p33）において「一部の調査参加者が自己の特徴を評定する際に暗黙の裡に同性集団を想定し、その中で自分の特性の相対的程度を回答している可能性もある。今後より正確な測定を行って再度検討する必要がある」と述べており、それを踏まえたためである。

理想得点・下限得点・上限得点 調査参加者に特性リストを呈示し、今後誰かと新たに恋愛関係を築くとして、その相手にリストの各特性を理想的に持っていてほしいレベルを評定させた。本研究ではこれを理想得点とする。同時に、その特性に関してこの程度ならば許容できるという上限と下限についても評定させた。これが上限得点、下限得点である。さらに、各項目に関して上限得点から下限得点を減じたものを許容範囲得点とした。

人口統計学的変数 性別、年齢、日本人であるか留学生か、性志向（異性愛志向かそれ以外か）について回答してもらった。

結果と考察

現実自己得点の性差

男女別に現実自己得点の平均と標準偏差を算出した（表1）。次に男女別にt検定を行ったところ12項目中6項目で有意差がみだされ、うち5特性で男性の方が得点が大きかった。この結果は、男性の方が自己をより肯定的に見ている可能性を示している。Jost（1997）においても、男性に比べて女性が自分の社会的価値を低く見積もりやすいことが示されており、本研究の結果とおおむね一致しているとみることができる。

また「言葉遣い」は伝統的に女性性特性とされてきた（伊藤, 1978）が、今回の結果では男性の方が高い値になっており、興味深い。これからの時代、言葉づかいの丁寧さは男性性特性とみなしていくべきなのかもしれない。一方、女性の方で得点が高かったのは「おしゃれ」のみであった。他の3つの女性性特性は、有意差がないか、逆に男性の方が高い値を示しており、特に女性性特性についてはユニセックス化が進んでいるように思われる。

なお、今回の調査は、調査対象者が暗黙の裡に同性集団を想定しないように注意を喚起して行った。喚起を行っていなかった戸塚（2010）とはやや結果が異なり、決断力、言葉遣い、おしゃれ、忍耐強さ、誠実さで男女の値に有意差が見られた。この結果は、先行研究では調査対象者が同性集団を想定していたことを示しているよう

にも見えるが、本研究とは実施時期（2009年／2013年）や調査参加者の属性（所属学部の違い等）、サンプル数（154名／212名）が異なっており、今回の結果が注意を喚起したことによって生じたものであるかどうかは断定できず、今後研究を重ねていく必要がある。ただ、今回の試みによって、より研究目的に忠実なデータは得られるようになったと考えている。

どのような特徴を相手に求めているか

男女別に理想得点の平均と標準偏差を算出した（表2）。t検定の結果、男性性特性については4項目中2項目で女性の方が得点が高く、女性性特性については4項目中3項目で男性の方が得点が高かった。すなわち、女性はたくましさや決断力を持つ相手を好ましく思っており、男性は愛嬌があり、言葉遣いがよく、繊細な相手を好ましく思っていた。この結果を考えると、男性も女性も伝統的な価値観に沿って恋愛相手を選択していることがうかがえる。この結果は戸塚ら（2002）の研究結果とおおむね一致していると言える。

上限得点と下限得点について

男女別に上限得点・下限得点の平均と標準偏差を算出した（順に表3、表4）。上限得点、下限得点ともに男女でやや異なっていたが、上限得点は5.29～6.60、下限得点は3.99～2.28の値であった。男女で性差があった項目は、おおむね理想得点で差が見られたものと同じであった。上限得点に関しては、明るさ・誠実さなどの特徴は向社会的特性（社会的に良いとされている特性）であるため、ほとんど全ての調査対象者は回答段階7（当の回答段階のラベルは「かなり高い」）を選択するのではないかと予想していたが、回答段階4（ラベルは「平均的なレベル」）や回答段階5（ラベルは「平均よりもやや高い」）を選んだ者も少数ながら存在し、向社会的特性ではあっても必ずしも高ければ高いほど良いというわけではないということが示された。下限得点に関しては、もっとも得点が高かったのは男女ともに「誠実さ」であり、恋人選択においてこの特性の有無が重要であることが推察できる。

許容範囲の大きさについて

男女別に許容範囲得点の平均と標準偏差を算出した（表5）。各特性の得点の範囲は2.54～3.09であった。事前の予想に反してほとんどの特性で男女の得点に差はなかった。つまり、男性が女性の女性性特性、女性が男性の男性性特性を重要視するという結果は得られず、男性も女性もほとんどの特性において同程度の許容範囲を持っていたと言える。ただし例外的に「愛嬌」のみは女性の方で許容範囲が広がった。すなわち、女性は男性の愛嬌の多寡について許容する範囲が広いということができ

る。女性は、愛嬌がある男性にも愛嬌が少ない男性にも、どちらにも魅力を感じるということであろう。

次に、特性間で許容範囲の広さに差があるのかを明らかにするため、12特性の許容範囲得点を従属変数とした1要因12条件の反復測定を行った。なお、表5でほとんど男女差がなかったため、この分析では男女別の分析は行わなかった。分析の結果、要因の主効果が見いだされた($F(9.76, 2059.76) = 4.67, p < .01$)。多重比較を行ったところ、「たくましさ—意志の強さ」、「たくましさ—繊細さ」、「たくましさ—誠実さ」、「意志の強さ—頭の良さ」、「繊細さ—頭の良さ」、「頭の良さ—誠実さ」「明るさ—誠実さ」に有意な差があることが明らかとなった。これらの結果から、特性によって許容範囲の広さが異なることが明らかとなった。なお、もっとも許容範囲得点が大きかったのは「たくましさ($M=2.95, SD=0.72$)」であり、小さかったのは、「誠実さ($M=2.57, SD=0.66$)」と「決断力($M=2.57, SD=0.73$)」であった。この結果は、相手の「たくましさ」という特性については、調査対象者たちはある程度高くても低くても構わないと考えているが、「誠実さ」や「決断力」という特性については、特定のレベルにこだわりがあることを示している。「誠実さ」と「決断力」の上限得点、下限得点を勘案すると、多くの調査対象者たちはこれらの特性が高いレベルにあることを望んでいると言える。換言すれば、若者が恋人を選択する際には、相手の「誠実さ」や「決断力」の特性を特に重視することを示唆している。

各特性の水準の類似

各特性に関して、調査参加者が恋人に自分と同じ水準を求めているのかを明らかにするために、各自己得点と上限得点・理想得点・下限得点の相関係数を算出した(表6)。ほとんどは無相関、あるいは低い相関(0~±.40)であったが、一部に中程度の相関(±.40~±.70)が見られた。中程度の相関が見られたのは、男性データの「言葉づかい」、女性データの「言葉づかい」、「おしゃれ」であった。この結果は、男女とも自分の言葉づかいの丁寧さと同じ程度の丁寧さを持つ相手を求めていることを示唆する。また女性は自分のおしゃれの程度と同じ程度におしゃれな男性を求めていると言える。

12ある特性のうち、なぜこの2特性でのみ中程度の相関が出たのか不明であるが、可能性として評価懸念との関係が指摘できるだろう。恋人のおしゃれさや言葉づかいの丁寧さは、内的な特性(例えばたくましさ)に比べて周囲の人(例えば自分の友人たち)に知覚されやすいと言える。自分の恋人がそのような特性において自分よりもずっと劣っているという事実は、友人たちからの自分に対する評価が下がる可能性が考えられる。そのため、周囲の人に知覚されやすい特性については自分と同程度

の水準を望むということが考えられる。もちろんこれは筆者の推測にすぎず、今後実証的に検討していく必要がある。

まとめ

許容範囲については、男性性特性に関しては女性の方で、女性性特性に関しては男性の方で許容範囲が狭い傾向がみられるだろうとの予想で調査を行ったが、分析の結果、許容範囲の大きさは男女で差がなかった(「愛嬌」を除く)。許容範囲はおおむね、性別にも、男性性特性、女性性特性といった伝統的な価値観にも影響されないものであると考えられる。一方、特性ごとに許容範囲は異なり、比較的許容範囲が大きい特性(例えば「頭の良さ」)や許容範囲が狭い特性(例えば「意志の強さ」や「誠実さ」)があることが明らかとなった。

各特性の水準の類似については、男性データの「言葉づかい」、女性データの「言葉づかい」と「おしゃれ」でのみ中程度の相関が見られ、その他の特性については無相関、あるいは弱い相関しか見られなかった。心理学の恋愛研究領域では、相補説(自分とは異なる特徴を持つ相手に魅力を感じるとする説)よりも類似説が支持されており、人は類似した特徴を持つ相手に好意を持ちやすくとされているが、本研究の結果を踏まえると、全ての特性においてよく類似した水準の相手を望むわけではなく、特性によって望む類似の程度が異なっていることが示唆される。先に推測したように他者に知覚されやすい特性については、自分と類似している相手を望む可能性が指摘できる。

今後の課題

本研究は許容範囲についての初めての研究であり、研究の発展可能性をさぐるため千葉県の大學生のみを対象にした小規模なものとしていた。そのため、厳密に言えば本稿の結果が「日本の大學生」に一般化できるとは断定できない。今後、より広い範囲で調査を行い、本研究の結果を再確認する必要があるだろう。

また今回は許容範囲を明らかにするために複雑な回答方式を使い、そのため短縮版の特性リストしか使うことができなかった。そのため、各特性の水準の類似については十分な数の特性を検討できなかった。今後は現実自己得点と理想得点のデータのみを取るような単純な回答方式でより多くの特性について回答してもらい、各特性の水準の類似についてより研究していく必要がある。

また許容範囲についても様々な課題が残されている。各特性について許容範囲が広い個人、狭い個人がいたが、そのような差が生じるメカニズムの解明が必要である。個人の属性、信念、経験等の要因が許容範囲の広さに及ぼす影響が予想できるのでその点を勘案した調査を行う

必要がある。さらに本研究では、愛嬌のみで男女の許容範囲に差が見られたが、その原因が何であるのか、他にこのような特性は存在するのかについても検討が必要である。

注

注1 本研究の調査対象者はほとんどが18～20歳であったが、数人のみ20台後半の者がいた。統計上はサンプル数が多い方が望ましいが、一方で調査対象者の年齢によって恋愛相手の理想水準などに差があることが考えられ、年齢が大きく異なる者が混じるとデータの解釈が難しくなる可能性があった。そのため、本研究では21歳以上の者8名を分析対象から外した。

上野行良(2004). 現代女子青年の恋愛に対する態度の諸側面, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 13 (1), 15-29.

引用文献

-
- Byrne, D., & Nelson, D. (1965). Attraction as a linear function of proportion of positive reinforcements. *Journal of Personality and Social Psychology*, 1, 659-663.
- 樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博己(2001). 恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方策の効果 広島大学心理学研究, 1, 53-68.
- 堀毛一也(1994). 恋愛関係の発展・崩壊と社会的スキル 実験社会心理学研究, 34, 116-128.
- 伊藤裕子(1978). 性役割の評価に関する研究 教育心理学研究, 26, 1-11.
- Jost, J. T. (1997). An experimental replication of the depressed entitlement effect among women. *Psychology of Women Quarterly*, 21, 387-393.
- 松井 豊(1993). 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64, 335-342.
- 松井 豊(2000). 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 92-93.
- 松井 豊・江崎 修・山本真理子(1983). 魅力を感じる異性像—同性の推測と実際のズレ— 日本社会心理学会第24回大会発表論文集, 44-45.
- 中里浩明・井上 徹・田中国夫(1975). 人格類似性と対人魅力—一向性と欲求の次元— 心理学研究, 46, 109-117.
- 詫摩武俊(1986). 青年の心理(改訂版) 培風館
- 戸塚唯氏(2010). 恋人・結婚相手が持つ否定的特性への嫌悪 千葉科学大学紀要, 3, 31-43.
- 戸塚唯氏・狩野 勉・上北 彰(2005). 年少者に対する評価における類似性バイアス 国際教育研究所紀要, 15, 17-27.
- 戸塚唯氏・森大介・児玉真樹子・深田博己(2002). 現実の自己像、異性に呈示する自己像、異性が抱く理想像のずれ 広島大学心理学研究, 2, 47-62.

表1 現実自己得点の性差

		男性		女性		<i>t</i> 値
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	
男性 特性	たくましさ	4.06	(1.26)	3.75	(1.26)	1.76
	指導力	3.94	(1.43)	3.49	(1.32)	2.33 *
	意志の強さ	4.39	(1.61)	4.03	(1.41)	1.72
	決断力	4.20	(1.52)	3.75	(1.32)	2.26 *
女性 特性	愛嬌	4.42	(1.48)	4.10	(1.44)	1.60
	言葉遣い	4.29	(1.43)	3.92	(1.12)	2.05 *
	繊細さ	4.13	(1.49)	4.04	(1.23)	0.43
	おしゃれ	3.28	(1.36)	3.69	(1.16)	2.32 *
人間 特性	忍耐強さ	4.91	(1.42)	4.49	(1.33)	2.16 *
	頭の良さ	3.61	(1.17)	3.40	(1.17)	1.33
	明るさ	4.81	(1.39)	4.54	(1.32)	1.43
	誠実さ	4.96	(1.08)	4.52	(1.10)	2.93 **

注1: 上記の*t*値は絶対値であり、自由度は全て210である。 * $p < 0.5$, ** $p < 0.1$

注2: 有意差があった項目については、*M* の大きい方にアミをかけた。

表2 理想得点の性差

		男性		女性		<i>t</i> 値
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	
男性 特性	たくましさ	3.72	(0.77)	4.88	(0.83)	10.50 **
	指導力	4.50	(1.00)	4.74	(0.83)	1.85
	意志の強さ	5.04	(0.96)	5.10	(0.94)	0.41
	決断力	4.95	(1.00)	5.26	(0.91)	2.32 *
女性 特性	愛嬌	5.55	(1.09)	4.92	(1.00)	4.33 **
	言葉遣い	5.01	(1.00)	4.57	(0.79)	3.48 **
	繊細さ	4.48	(0.84)	4.05	(0.74)	3.84 **
	おしゃれ	4.76	(0.86)	4.75	(1.00)	0.09
人間 特性	忍耐強さ	4.74	(1.02)	5.17	(0.89)	3.23 **
	頭の良さ	4.61	(0.99)	4.80	(0.77)	1.52
	明るさ	5.51	(1.06)	4.90	(0.94)	4.36 **
	誠実さ	5.44	(0.91)	5.42	(0.85)	0.14

注1: 上記の*t*値は絶対値であり、自由度は全て210である。 * $p < 0.5$, ** $p < 0.1$

注2: 有意差があった項目については、*M* の大きい方にアミをかけた。

表3 上限得点の性差

		男性		女性		t 値
		M	SD	M	SD	
男性 特性	たくましさ	5.29	(0.96)	6.28	(0.76)	8.20 **
	指導力	5.74	(1.06)	6.06	(0.96)	2.30 *
	意志の強さ	6.12	(0.88)	6.33	(0.77)	1.88
	決断力	6.18	(0.95)	6.53	(0.72)	2.89 **
女性 特性	愛嬌	6.46	(0.72)	6.28	(0.79)	1.76
	言葉遣い	6.43	(0.77)	6.04	(0.79)	3.58 **
	繊細さ	5.82	(0.88)	5.31	(0.92)	4.04 **
人間 特性	おしゃれ	6.18	(0.81)	6.19	(0.81)	0.15
	忍耐強さ	6.14	(0.95)	6.49	(0.65)	3.05 **
	頭の良さ	6.11	(0.94)	6.24	(0.74)	1.07
	明るさ	6.57	(0.63)	6.31	(0.69)	2.85 **
	誠実さ	6.51	(0.71)	6.60	(0.65)	0.95

注1: 上記のt値は絶対値であり、自由度は全て210である。 * $p < 0.5$, ** $p < .01$

注2: 有意差があった項目については、Mの大きい方にアミをかけた。

表4 下限得点の性差

		男性		女性		t 値
		M	SD	M	SD	
男性 特性	たくましさ	2.28	(0.86)	3.41	(0.77)	9.93 **
	指導力	2.91	(1.07)	3.29	(1.00)	2.67 **
	意志の強さ	3.56	(1.13)	3.74	(0.78)	1.30
	決断力	3.47	(1.05)	3.90	(0.94)	3.11 **
女性 特性	愛嬌	3.81	(1.16)	3.19	(1.07)	3.96 **
	言葉遣い	3.67	(1.19)	3.25	(0.94)	2.83 **
	繊細さ	3.11	(0.97)	2.76	(0.89)	2.67 **
人間 特性	おしゃれ	3.39	(1.01)	3.46	(1.02)	0.54
	忍耐強さ	3.38	(0.99)	3.73	(0.91)	2.67 **
	頭の良さ	3.11	(1.15)	3.29	(0.92)	1.24
	明るさ	3.79	(1.24)	3.35	(0.86)	2.89 **
	誠実さ	3.97	(1.05)	3.99	(0.79)	0.11

注1: 上記のt値は絶対値であり、自由度は全て210である。 * $p < 0.5$, ** $p < .01$

注2: 有意差があった項目については、Mの大きい方にアミをかけた。

表5 許容範囲得点の性差

		男性		女性		t 値
		M	SD	M	SD	
男性性特性	たくましさ	3.01	(1.18)	2.87	(0.88)	0.94
	指導力	2.83	(1.23)	2.77	(1.15)	0.35
	意志の強さ	2.55	(1.15)	2.59	(0.95)	0.25
	決断力	2.71	(1.05)	2.62	(1.02)	0.63
女性性特性	愛嬌	2.66	(1.11)	3.09	(1.09)	2.83 **
	言葉遣い	2.76	(1.19)	2.80	(1.16)	0.24
	繊細さ	2.71	(1.15)	2.55	(1.06)	1.03
	おしゃれ	2.79	(1.06)	2.73	(1.04)	0.40
人間性特性	忍耐強さ	2.76	(1.09)	2.76	(1.04)	0.01
	頭の良さ	3.00	(1.30)	2.95	(1.13)	0.32
	明るさ	2.78	(1.22)	2.96	(0.94)	1.14
	誠実さ	2.54	(0.99)	2.61	(0.91)	0.57

注1: 上記のt値は絶対値であり、自由度は全て210である。 * $p < 0.5$, ** $p < .01$

注2: 有意差があった項目については、Mの大きい方にアミをかけた。

表6 各自己得点と上限得点、理想得点、下限得点の相関係数

	男性			女性		
	上限	理想	下限	上限	理想	下限
たくましさ	.04	.08	.13	.13	.36 **	.18
指導力	.01	.06	.26 **	.09	.30 **	.10
意志の強さ	.04	.15	.13	.04	.23 *	.27 *
決断力	.04	.19 *	.13	.08	.08	.17
自己得点	.10	.23 *	.27 **	.26	.39 **	.26 *
愛嬌	.18	.42 **	.47 **	.29 **	.46 **	.39 **
言葉遣い	.04	.08	.11	.02	.12	.23 *
繊細さ	.12	.31 **	.39 **	.38 **	.54 **	.45 **
おしゃれ	.02	.08	.05	.13	.23 *	.25 *
忍耐強さ	.05	.15	.10	.14	.19	.10
頭の良さ	.27 **	.36 **	.20 *	.15	.38 **	.25 *
明るさ	.14	.25 **	.34 **	.25 *	.31 **	.28 **
誠実さ						

注1: * $p < 0.5$, ** $p < .01$

注2: .40以上の値を太字にした。

恋人に求める特徴に関するアンケート

補助資料 1

I. まずあなたの特徴についてお聞きします。「同年齢の人たち」に比べて、あなたは下記の特徴をどの程度持っていますか？ もっともあてはまる回答段階の数字に1つだけ○をつけてください。なお、ここでいう「同年齢の人たち」とはあなたと同年齢の人たちではなく、同性も異性も含んだ人たちのことです。つまり、あなたと同年齢のすべての人たち（男性も女性も含む）と比較して、あなたが下記の特徴をどの程度持っているかをお尋ねしています。

	かなり低い	わりと低い	平均よりやや低い	平均的なレベル	平均よりやや高い	わりと高い	かなり高い
たくましさ							
指導力							
意志の強さ							
決断力							
愛嬌 <small>(ひょうきんでにやかな様子)</small>							
言葉遣いのいいしさ							
繊細さ							
おしゃれさ							
忍耐強さ							
頭の良さ							
明るさ							
誠実さ							

- このアンケートは社会心理学の恋愛心理領域の研究であり、現代の大学生が恋人としてどのような特徴を持った相手をも望むのかを調べるためのものです。
- 個人が特定されるような形で、このアンケートの結果を公表することはありません。学術誌等で公表するのは、統計的に処理した数値（平均値など）だけです。
- 異性愛志向の人は「異性の恋人」を、同性愛志向の人は「同性の恋人」を想定して回答してください。
- できるだけ匿名性を高めるため、アンケートと出席用紙は分離して提出してもらいます。データ入力やデータの信頼性判断は外部に依頼し、研究者（戸塚）がどのデータが誰のものか特定できないようにします。
- 何らかの理由、思想、主義のためこのアンケートに回答したくない場合は、回答しなくて結構です。回答しなくてもいいかなる不利益も生じません。

千葉科学大学「人間の心理」担当 戸塚唯氏

II. あなたがどういいう人かについてお聞きします。

- ・あなたは男性ですか女性ですか？ ○をつけてください。
- 1. 男性 2. 女性
- ・あなたは何歳ですか？ 答えたくない場合は、×を入れてください。
() 歳
- ・あなたは日本人ですか、それとも留学生ですか？ ○をつけてください。
- 1. 日本人 2. 留学生 3. その他
- ・あなたは異性愛志向ですか？ 当てはまる番号に○をつけてください。答えたくない場合は、この項目に限っては、回答しなくても結構です。
- 1. 異性愛志向 2. その他 (例：同性愛志向、異性愛と同性愛の両方の志向をもつ、誰も愛せない等)

III. 今後、あなたが誰かと新たに恋愛関係になるとして、その相手に下記の特徴を理想的にはどの程度もってほしいと思いますか？ 理想的に持っていてほしいという回答段階に○をつけてください。また、恋人として許容できるのは、どの範囲ですか？ この程度ならば許容できるという回答段階（上限と下限）に△をつけてください。下に記入例を載せました。これをもとに次のページに回答してください。

● 記入例

	かなり低い	わりと低い	平均より低い	平均的なしレベル	平均より高い	わりと高い	かなり高い
たくましさ							
たくましさ							
明るさ							

ここでいう平均は、さつきと同じで男女の平均です。

一般的な例。
理想は「平均的なレベル」で、「かなり高い」から「わりと低い」まで許容できる場合。

理想と上限が重なっている場合の例。理想が「かなり高い」、上限も「かなり高い」、下限は「わりと高い」場合。

許容範囲がかなり狭い場合の例。理想も上限も下限も、すべて「平均的なレベル」の場合。

かなり低い	わりと低い	平均より低い	平均的なしレベル	平均より高い	わりと高い	かなり高い

たくましさ							
指導力							
意志の強さ							
決断力							
愛嬌 (ひょうきんにこやかな様子)							
言葉遣いのていねいさ							
繊細さ							
おしやれさ							
忍耐強さ							
頭の良さ							
明るさ							
誠実さ							

ありがとうございます。これでアンケートは終わります。